

支え合い助け合って、 暮らしやすい渋川へ

地域 サロン訪問



渋川学区内のサロンは11団体、約170人が体操やゲームで交流の輪を拡げています。皆さん毎月の開催日を楽しみにしています。



医療福祉を 考える会議

ふれあいサロン



一人暮らしのお年寄りが馴染みの方々といきいきと交流してもらいたい。その思いで、地域の団体やボランティアの協力を得て、毎年秋に開催しています。



「地域福祉をより幅広い視点で考えよう」と、渋川学区で活動中の各福祉関連団体が参加しています。令和6年秋には、高齢者の活動指針となるマップを配布しました。

学区の特徴

草津駅に近いことにより経済の高度成長期に京都、大阪方面からの転入者急増。その後も人口増加は続き、草津町が市制移行となった頃700人余りだった渋川学区の人口は令和6年9月に9600人になりました。

学区社協のPR

「若い街」と言われた渋川ですが、令和30年頃には高齢化率は草津市の平均を上回るとの予想です。また近年マンションへの転入者は高齢者の比率が高い傾向にあり、高齢化問題は学区社協の最大の課題となるため、渋川学区社協は、高齢者対応を中心に活動しています。

渋川学区社会福祉協議会